

厚生労働省がん対策推進協議会長 門田守人様

がん対策推進協議会委員
(勢井、難波、馬上、若尾、桜井)

がんに関する研究開発についての提言

【勢井】ICT(情報通信技術)等を活用した研究開発

- ① 手術など医療従事者の能力差による患者への負担を無くす為、手術支援ロボット開発強化・操作能力検定制度等の整備とゲノム情報からの治療法等の開発を進める【各界と連携した治療法の開発】
- ② 正確な検査が苦痛もなく簡単にできる検査薬・検査方法の開発を進める【早期発見】

【難波】予防と早期発見、早期治療の充実

- ① がん患者の利益に基づいた、臨床現場、研究、産業との連携強化。
- ② 高感度、高精度のがん診断の実現を目指したゲノム診断等の研究開発と、個別的な法整備の加速化。
- ③ 個別化医療を実現するためのバイオマーカーの研究、コンパニオン診断薬などによる検査の推進、開発と、社会への啓発および情報の集約。

【馬上】小児がん、希少がん、難治性がんの観点からのがん研究の推進について

- ① アンメットメディカルニーズに対して研究を加速化するために最新のゲノム医療や個別化医療の標準化、データベースの確立、国際共同研究の推進。がん研究全体の効果検証による対策の公平化。
- ② 研究効率化の観点から研究初期の段階から患者が参画しニーズを直接伝え、研究のデザイン、結果のレビュー、結果の広報を行うという仕組みの創設。(治療開発・患者QOL研究)

【若尾】がんに関する研究開発について

- ① がんの本体究明のみならず、既存のがん治療に対する支持療法として何が必要でどうしたら患者のQOLが上がるかを大至急研究開発する
- ② 「充実したサバイバーシップを実現する社会の構築を目指した研究」は、多くの患者等が望んでいる領域である(参照:AMED委託事業「がん患者団体に係る予備調査」)。そのためにも、「がんになっても安心して暮らせる社会の構築」の定義を明確にし、個別目標に取り入れ達成目標と期間を明記する。
- ③ 侵襲性の少ないがん検診(5大がんのみならず、すべてのがんを対象とする)の早急な研究開発
- ④ 患者が求めるがん情報の処方に関する信頼性と伝え方の研究開発

【桜井】希少がん、難治性がんの克服(早期発見が困難、薬剤耐性と早期転移性を有した癌)→資料参照

- ① 官民が連携した「ゲノム情報→TR→臨床」のパイプライン構築を目指したメディカル・ゲノム・センター整備による個別化・革新的創薬の推進、ビッグデータを用いた個別化検診モデル事業を実施すること。
- ② 日本版 ClinVar 構築など、IT 技術や AI 技術を用いた VUS(意義不明の変異)や希少がん、難治性がんに対する診断解析の補助と検証目的としたモデル事業を開始すること。
- ③ 国際プロジェクト(GA4GH)への参加推進による、ゲノム関連国際共同治験への参加を推進すること。
- ④ がんの発症、転移のメカニズムの解明によるがんの克服。また、早期発見が困難ながん種については、早期発見を目指した医療機器や技術の開発を行い、死亡率の削減を推進すること。
- ⑤ 家族性腫瘍患者、その血縁者に対する社会的不利益からの擁護策の検討を推進すること。
- ⑥ 生活の質を問い、政策の根拠となるサバイバーシップ研究を患者と共に推進すること⇒【6,8】関連
- ⑦ 新規薬剤を含めた支持療法の徹底と、研究開発による就労支援を推進すること ⇒【8,9】関連